

橋梁本体および添架設備の共同点検による効率化 (1/2)

■インフラの維持管理・修繕等に係る官民連携事業の導入検討
□官民連携グリーンチャレンジモデル

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

- 背景**
- 自治体は橋梁本体点検を5年に1度実施
 - 一方、各添架企業も**独自**に添架管路の点検を実施し、路上規制が繰り返し行われ、共同点検等によるコスト削減も活発に行われていない
- 課題**
- 行政、添架企業が各々点検することによる**路上規制**の繰り返しの抑制
 - 点検費用**の削減
- 解決策**
- 民間（添架企業）が共同点検することで路上規制の**最小化**及び点検費用の**削減**を図る
 - さらに、民間が保有するツールやノウハウを最大限活用し、日常管理だけでなく**災害時**における利便性も高めていく
- 対象**
- 梁数を保有する全ての自治体及び自治体橋梁に添架する企業



自治体は5年周期で本体点検を実施



添架企業も独自に管路点検を実施

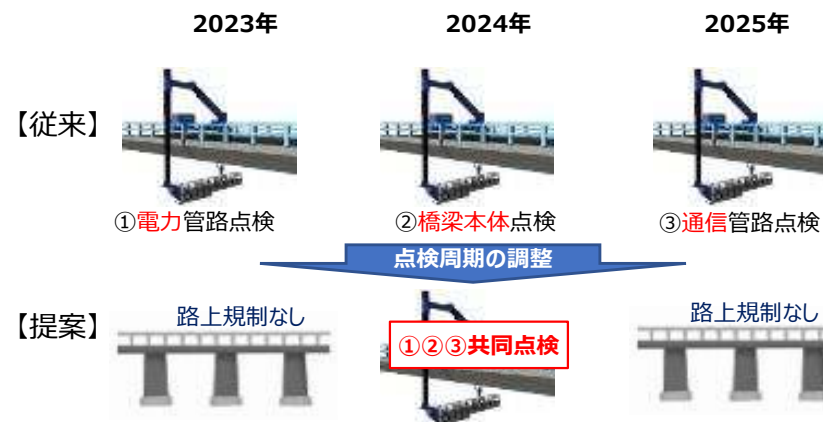
②提案の概要

●概要

橋梁本体点検を民間に**包括発注**する中で、各添架企業の点検周期を民間が**調整し共同点検**を実施することで、**路上規制**の繰り返し防止や共同実施による割勘効果で**コスト削減**を図るものである

また、膨大な管路設備の維持管理を実践し、**保全や調整スキル**を保有している**添架企業**が本事業を担うことで、効果が最大化するものである

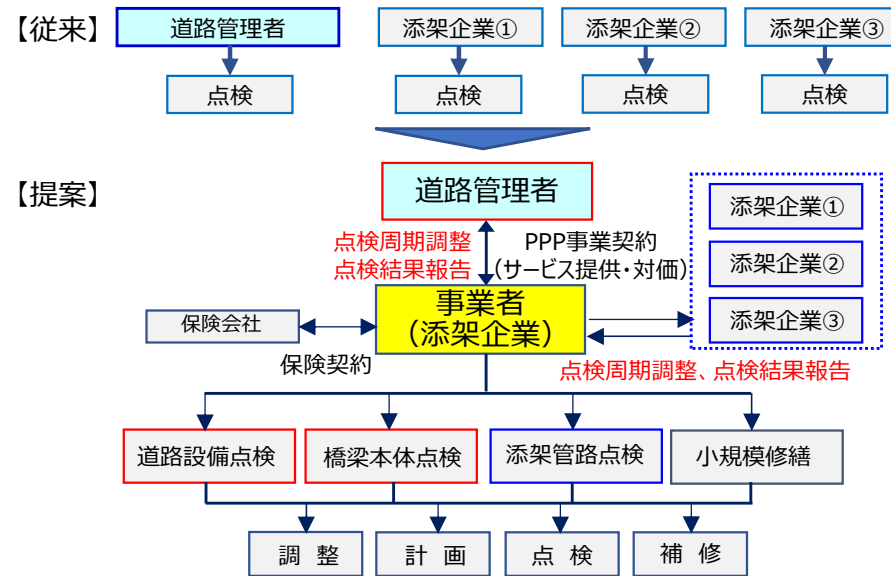
点検周期調整によるコスト削減イメージ



●事業スキーム

従来、自治体が行っている橋梁本体の**点検業務**の発注、添架企業が各々行っている添架管路点検、更に共同点検に向けた添架企業との点検周期**調整**を本提案スキームではPPP事業者が実施する

また、点検に併せて路面、付属物等の**簡易修繕**も実施する



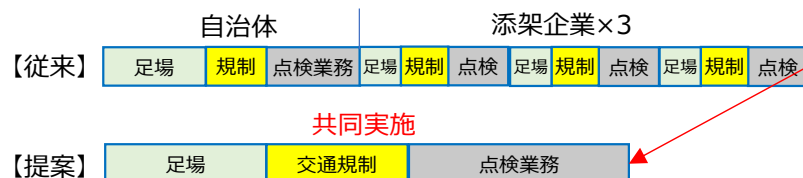
橋梁本体および添架設備の共同点検による効率化 (2/2)

■インフラの維持管理・修繕等に係る官民連携事業の導入検討
□官民連携グリーンチャレンジモデル

●提案のポイント

① 共同点検によるコスト削減

従来、各々実施している橋梁本体の点検と各添架企業の点検業務を**共同実施**することで、**コスト削減**が可能となる



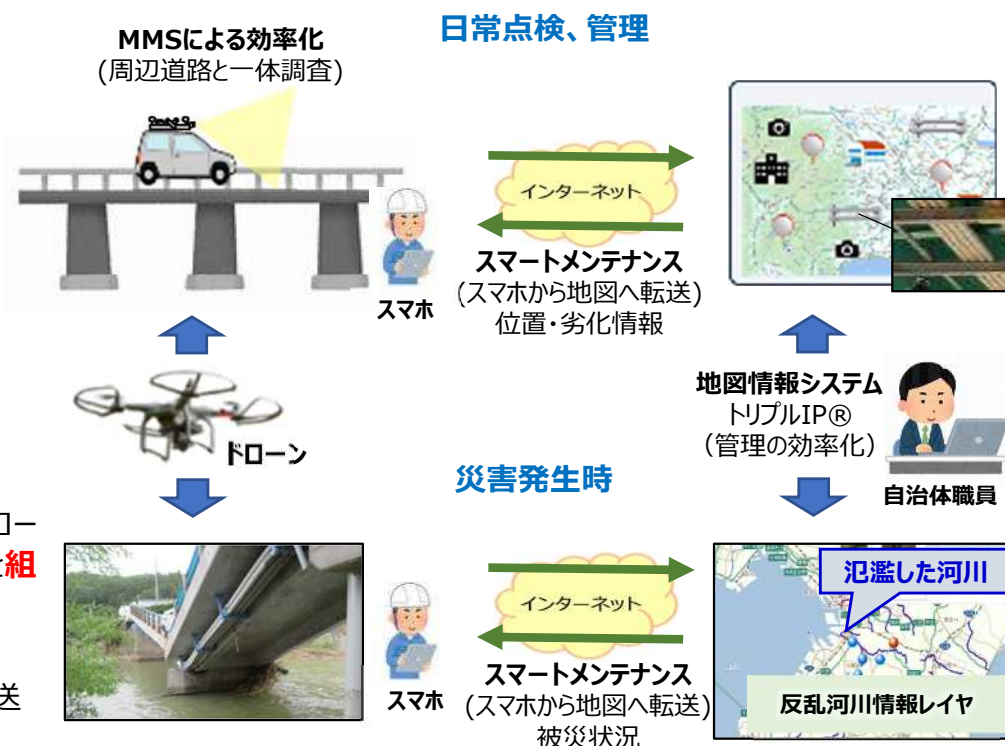
② 各種点検・管理ツール活用による効率化

・日常点検、管理

橋梁点検車を使用する一般的な点検に加え、MMSによる路面点検、ドローンによる下部工点検及び地図情報システムを活用した点検結果の管理等を**組み合わせ**ることによって、より**効率的**な橋梁の**維持管理**が可能となる

・災害時での活用

事業者（添架企業）が駆けつけ、点検した情報を地図情報システムに転送
自治体や他の添架企業も現地に行かずに状況把握が可能となる



③ スキーム（技術）の導入により得られる効果

●自治体が見られる効果

【点検費用の削減】**約10～20%削減**（足場・点検車、規制等の削減）

【その他】包括発注による職員の**負担軽減**

●占有企業が得られる効果

【点検費用の削減】約10～20%削減（足場・点検車、規制等の削減）

●地域住民

【点検期間の短縮】共同による**路上規制の最小化（3企業の場合：1/3）**

その他

- 本提案は、**広域的**（周辺市町村と連携して発注）に実施し、対象の橋梁母数を増やすことで、間接費の削減等による割勘効果をさらに高めることが可能である。

- トリプルIP®/MMS 公式Webサイト
<https://www.nttinf.co.jp/service/mms/>

